

施策評価シート (平成28年度の振り返り、総括)

作成日 平成29年 07月 13日

施策 No.	10	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課、生涯学習課		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	31年度見込
人口	人	82,584	82,136	81,511	80,929	80,698	80,590	79,422	80,200

施策の意図	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力のある生活を実現する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	市民意向調査の結果及びスポーツ振興課の集計により把握する。								
成果指標名	単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	31年度基本計画目標値
何らかのスポ・レクを行っている市民の割合	%	54.8	49.6	50.5	48.9	47.3	60.7	59.3	55.0
市スポーツ施設利用者延人数	人	473,299	449,285	547,695	545,068	537,883	580,157	575,146	580,000
スポーツ教室数	教室	17	16	23	34	34	29	29	30
スポーツ教室参加人数	人	451	546	594	701	684	657	559	700

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、スポーツ・レクリエーションを自主的に行う。 行政は、スポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と施設などの環境整備の充実を図る。								
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、平成26年度：47.3%、平成27年度：60.7%、平成28年度は前年より1.4ポイント減って59.3%である。
・市スポーツ施設利用者の延べ人数は、平成26年度：537,883人、平成27年度：580,157人、平成28年度は前年より5,011人減って575,146人である。
補足事項参照

(2) 近隣他市との比較

・「栃木県政世論調査」のスポーツ活動実施率（週1日以上スポーツをしている比率）は平成26年度：38.4%、平成27年度：38.8%、平成28年度：43.7%、である。
また、総合振興計画等に掲載されている「週1日以上スポーツ等を実施している」という数値は、下野市が51.7%（H26）、小山市が53.7%（H25）、栃木市が66.7%（H26）、佐野市が62.0%（H26）、さくら市が30.2%（H26）、日光市が47.7%（H27）である。
真岡市の「市民意向調査」でのスポーツ・レクリエーションの実施率は平成26年度：47.3%、平成27年度：60.7%、平成28年度：59.3%、であり、県全体や他市と比べ、比較的高い水準にある。（ただし、本市の調査は「週何日以上実施している」という設問ではないので、単純に比較はできない）。

(3) 住民期待水準との比較

・市民意向調査によると、今後何らかのスポーツを始めたいと思っている割合は、前年より0.5ポイント増えて62.4%である（昨年度は61.9%）。
市民意向調査における、今後始めたいスポーツ・レクリエーションの上位は
1位ウォーキング：14.6% 2位筋力トレーニング：13.5% 3位ハイキング：10.9%
4位バドミントン8.5%、5位水泳：8.4%である。
（「日ごろどのようなスポーツ・レクリエーションをやっていますか」の質問には、ウォーキングが29.5%、次いで筋肉トレーニングが10.0%、ゴルフ9.5%、ハイキング7.2%、体操6.9%である。）

28年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・スポーツ・レクリエーションへの取り組みのきっかけとして、各種スポーツ教室を開催している。
・教室数と参加者数は、平成26年度が34教室684人、平成27年度が29教室657人、平成28年度が29教室、559人の参加があり、内容についても、子ども向け、親子向け、一般向けと年齢・性別を問わず参加できるものとしている。
・子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向にあることから、子どもと一緒に参加できる親子スポーツ教室として、卓球やサッカー、わんぱく親子スポーツ教室（トランポリン・スマイルボーリング、スカイクロス・スポーツ吹き矢等）などを実施した。
・生活習慣病の一つであるメタボリックシンドロームの予防と改善に繋げるために、フィットネスインストラクター等の指導による『今日からできる簡単エクササイズ』を健康増進施設真岡井頭温泉に委託し、2日間で46人の参加があった。
・市民意向調査の結果、ウォーキングをしている市民、今後ウォーキングを始めたい市民が多いことから、安全なコース、コースの距離・所要時間や歩数等を示した『ウォーキングマップ』を平成27年度と28年度に作成した。
・スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、平成23年度から整備を進めている総合運動公園（真岡市小林地内：全体整備面積26.6ヘクタール）において平成26年度には陸上競技場とサッカー場を供用開始した。また、平成27年度には夜間照明設備を備え、陸上競技・ソフトボール・サッカー等に使用できる多目的広場、大型複合遊具を設置した子ども広場、健康遊具を設置した健康広場が完成し、28年度には相撲場が完成した。
・平成26年9月から、総合体育館内に女性専用のトレーニングルームを開設したところ利用者が増加した。
・平成28年3月に、子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことを目的に、総合型地域スポーツクラブ『もおかスポーツクラブ』が設立され、陸上競技、障がい者ランニング、グラウンドゴルフ、ダンス等のスポーツ教室を開催している。（平成28年度会員 291人）
・競技力向上の評価としては、県大会以上の大会において優秀な成績を収めて、市体育協会より表彰された選手の数、平成26年度91人、27年度89人、28年度94人でした。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

・市民意向調査によると、今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションとして、ウォーキングや筋力トレーニングの割合が高いため、ウォーキング教室や筋力トレーニング教室を開催する。

・子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向であることから、子どもと一緒に参加できる教室として、ショートテニス、トランポリン、スマイルボーリング、スカイクロス、スポーツ吹き矢等のニュースポーツの教室を開催し、スポーツ・レクリエーションに取り組む機会を増やす。

・スポーツの振興には、子どもの頃からいろいろな機会ですポーツに触れ、親しむことが必要であることから、スポーツ少年団活動の支援の充実を図る必要がある。

・引き続き、スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、総合運動公園整備計画に基づいて都市計画課及び関係団体等と連携を図りながら、平成29年度から平成30年度までの2か年で、弓道場、クラブハウス、人工芝のテニスコート、屋外トイレ、園路等を順次整備していく。

【市長公約に関連する事項】

・スポーツによるもおか創生の推進
スポーツを通じた健康増進の意識の醸成や、スポーツツーリズムによる地域活性化など、スポーツによるもおか創生について調査・研究していく。

28年度の
評価結果

補足事項

1. 施策の成果水準とその背景

(1) 施策成果の時系列比較の補足資料

各体育施設の利用状況(延べ利用者数:575,146人)内訳

1 体育館 延べ167,743人

総合体育館:60,726人、武道体育館:34,716人、スポーツ交流館:43,707人、附属体育館:7,461人
弓道場:2,166人、二宮体育館:10,917人、二宮弓道場:81人、地域体育館:7,969人

2 運動場 延べ198,821人

東運動場:9,617人、北運動場:32,426人、市民公園:15,621人、大谷台公園:9,219人
三ツ谷公園:3,230人、勝瓜公園:11,085人、松山公園:4,022人、鬼怒自然公園:31,442人
暫定広場:18,913人、二宮運動場等:33,525人、きぬわいわい広場:4,795人、総合運動公園:24,926人

3 学校体育施設 延べ208,582人

小学校体育館:58,164人、小学校運動場:104,349人、中学校体育館:10,523人、
中学校柔剣道場:22,377人 真岡工業高校(夜間):13,169人

上記、1 体育館、2 運動場の利用について、種目別集計

【体育館】1位バドミントン:19.0% 2位ダンス:15.7% 3位卓球:15.0% 4位トレーニング:6.5%
5位フットサル:6.2%

【運動場】1位サッカー:45.0% 2位軟式野球:20.0% 3位グラウンドゴルフ:12.9%
4位陸上競技:7.6% 5位テニス:4.4%